

科目名	行政論特講	担当者	セキネ 関根 フミオ 二三夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>20 世紀になって顕著になってきた行政の多様化・複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。本来、政策の執行を扱うとされた行政が、今や派生的とも言える政策の立案や決定に大きな影響力を持つようになり、議会政治の危機を生じさせております。行政が持つ制度面や機能面での特徴を国家との関連において把握し、行政と国家とが如何なる関係にあるかを学びます。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 国家概念を理解することで、国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解することが出来るようになります。国家につきましては、19 世紀の立法国家から 20 世紀の行政国家へ、また社会につきましては、19 世紀の市民社会から 20 世紀の大衆社会へと変遷してきており、それぞれの特徴を把握します。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国家法人説や国家有機説を理解できるようになる。</li> <li>② 国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解できるようになる。</li> <li>③ 国家と国家機関との関係を理解できるようになり、体系的に説明できるようになる。</li> <li>④ 行政国家と関連して官僚政治を理解できるようになる。</li> <li>⑤ 官僚政治と議会政治の原理との関係を理解できるようになる。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 課題に関する質疑応答をメールのやり取りを中心に行います。その際、課題の要点を理解するような問いかけを行い、自発的に問題点を整理し、解決策を探ることが出来るようになります。</p> <p>【学修方略 (LS)】と学修時間 テキスト及び参考書を基本に、メールを用いた質疑応答を行います。レポート提出期間内に、なるべく早く草稿を提出して頂きまして、問題点を把握し、完成稿に近づけて行きます。レポート完成稿の提出につきましては、学事歴において定められた提出期間内の提出を厳守して頂きたく存じます。 学修時間につきましては、基本教材 1 及び 2 同様に、レポート 1 課題につきまして 4 5 時間を費やすことを目安として下さい。</p>		
スケジュール	<p>大学院が指定しました提出期間内に課題についてのレポートを提出して頂きます。提出期間内におきまして余裕をもって草稿を提出して頂き、何度かやり取りをしました後、完成稿を提出して頂きます。</p> <p>最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	履修上のポイントや到達目標、レポート課題の留意点を参考に評価します。
	観察記録	30%	質疑や添削草稿への対応を中心に評価します。
履修者への要望	<p>テキスト及び参考書を熟読して頂きますと共に、内閣や大統領を頂点とします行政部で、どのようなことが行われているか、また内閣や大統領と議会との関係はどのようになっているかなどをメディアの報道や記事などを参考にして考えて頂き、行政部での問題点を把握するように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 関根二三夫、岩井奉信、黒川貢三郎、杉山逸男、外山公美、松木修二郎 教材名： 『教養政治学』（南窓社、2013年）ISBN: 978-4-81-650187-6 2,900円+税
	政治学の研究対象は、広範囲に及びます。本書は、一般教養の政治学として執筆されたものでありますが、現代の政治を理解し得るのに必要な内容を含むものです。政治学の沿革、政治権力、国家と政府、政治過程、選挙と投票行動、政治と世論などが含まれており、国家に生起する政治現象の理解に役立つものです。
参考図書	山田光矢編『政治学』（弘文堂、2011年）ISBN: 978-4-33-500192-5 2,000円+税
履修上のポイント	国家に生起する現象を政治面や社会面から把握することで、国家を立体的に把握することが可能になると考えられます。国家を成立させる要素を伝統的に考えますと、国民、領域そして主権があります。それらの要素には、人間が深く係りを有しており、政治現象や社会現象を理解する必要があります。現代国家におきましては、個人が国家を離れて生活することが不可能に思われますので、国家に生起する問題を理解することが重要です。
レポート課題 1	近代国家の成立と発展について述べよ。 <b>留意点：</b> 近代の市民社会から現代の大衆社会への変化において、国家の機能が如何に変遷してきたのかを考察して欲しいと思われます。
レポート課題 2	国家と社会との関係について述べよ。 <b>留意点：</b> 一元的国家論と多元的国家論との相違について考察して欲しいと思われます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西尾勝 教材名： 『行政学』（有斐閣、2001年）ISBN: 978-4-64-104977-2 3,200円+税
	本書は、行政の制度を中心に管理や政策に重点を置いて述べています。国家行政や地方行政が円滑に遂行されるためには、行政の諸局面を考慮しなければなりません。行政と行政学の背景、行政制度の構造、行政過程の展開、行政管理の充実、行政統制の推進等が、その内容になっています。
参考図書	外山公美編『行政学』（弘文堂、2011年）ISBN: 978-4-33-500195-6 2,400円+税
履修上のポイント	行政概念については、憲法、行政法、行政学などからの把握が可能です。三権分立的控除説や国家目的実現説などの法的把握以外に行政過程説や統治機能説などの行政学的把握があります。行政学において行政概念がどのように把握されているか、また概念の把握に至る過程がどのようなものであるかを、行政の諸局面を考察しながら考えて欲しいと思われます。
レポート課題 1	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学について述べよ。 <b>留意点：</b> シュタイン行政学は、ドイツ官房学を集大成し、行政法学への道を拓いたといわれます。シュタイン行政学が成立する背景、シュタインの国家観における国家と行政との関係、行政学の内容、行政法学が台頭する理由などを考えて欲しいと思われます。
レポート課題 2	現代国家と行政統制について述べよ。 <b>留意点：</b> 19世紀の立法国家から20世紀の行政国家への移行は、行政府の政策立案機能や政策決定機能を増大させました。行政府を外在的に、また内在的に統制し行政の民主化を確保して、行政責任を明確にすることが必要です。

### 基本教材 1

第 1 回	国家と政府：近代国家の成立と発展
第 2 回	近代市民社会
第 3 回	資本主義社会の発展
第 4 回	大衆社会の出現
第 5 回	国家権力：権力分立
第 6 回	権力分立の意義と特性
第 7 回	権力分立の史的展開
第 8 回	権力の区分・分離・抑制
第 9 回	政治の概念
第 10 回	政治と行政
第 11 回	政府の機能
第 12 回	政府の形態
第 13 回	議会制度の変遷
第 14 回	議会の原理
第 15 回	議会の構成と運営

### 基本教材 2

第 1 回	官僚制と民主制
第 2 回	ドイツ官房学とシュタイン行政学
第 3 回	アメリカ行政学
第 4 回	官僚制
第 5 回	中央集権と地方分権
第 6 回	わが国における戦前の官吏制と戦後の公務員制
第 7 回	組織の問題点（官僚化と寡頭化）
第 8 回	政策の循環と行政活動
第 9 回	行政評価
第 10 回	稟議制
第 11 回	行政活動と能率概念
第 12 回	行政管理の機能及び原則
第 13 回	行政統制：外在的統制
第 14 回	行政統制：内在的統制
第 15 回	行政責任